

枚方淀川探鳥会 2026年4月

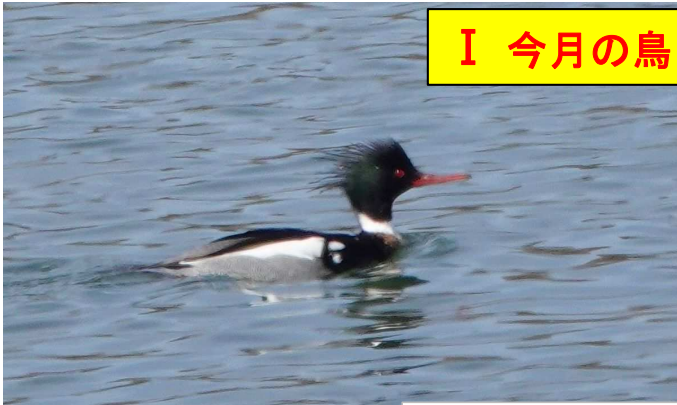
2026年(令和8年)4月5日(日) 9:00~12:00

日本野鳥の会大阪支部

前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏

松井正夫、新名泰博、平 軍二(☎090-6901-1425)

I 今月の鳥 ウミアイサ



雄 ウミアイサ 20260301 (小河敏之氏) 雌

↑ ①ウミアイサ

カモ目カモ科ウミアイサ属 L 55cm

漢字名 海秋沙

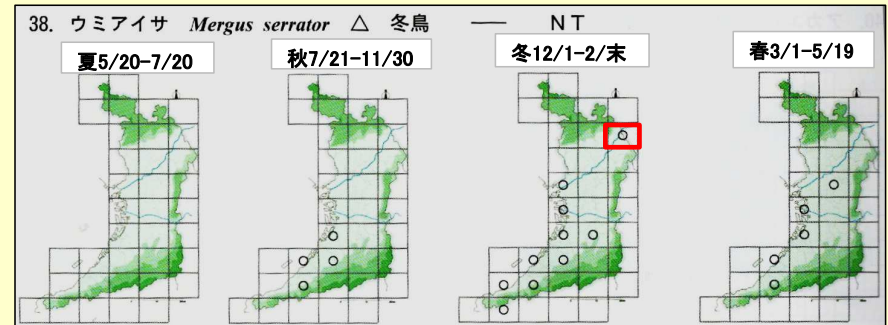
学名 *Mergus serrator*

英名 Red-breasted Merganser

3/1探鳥会で水にゆっくり浮かんでいるカワアイサの近くで潜水を繰り返すウミアイサを観察した。探鳥会チェックリストにあるように、この13年間の観察回数は3回しかない希な鳥であった。

②大阪府のウミアイサ (大阪府鳥類目録 2016)

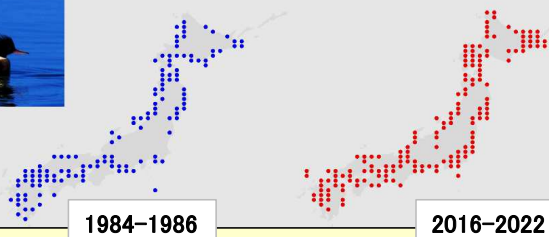
大阪府では冬鳥として稀に観察されている。□は枚方淀川の記録



③ウミアイサ 日本での越冬 バードリサーチ・日本野鳥の会 全国鳥類越冬分布調査2016~2022年

全国の湾や河口部に冬鳥として渡来する。1980年代は関東地方ではあまり記録がなかったが、2010年代は複数の地域で記録された。また北海道でも分布が拡大していた。

ウミアイサ *Mergus serrator* 全長: 48-66cm 体重: 900-1200g



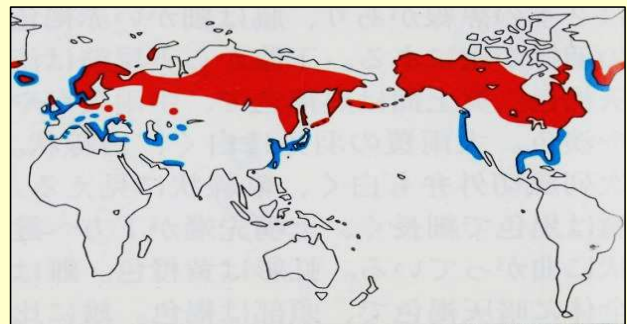
1984-1986

2016-2022

④世界のウミアイサ分布図

真木・大西(日本の野鳥590) 2000年平凡社

世界ではユーラシア大陸・北アメリカ大陸の北部に繁殖地を持ち中緯度以南の海岸沿いに越冬地がある。



II 2026年3月探鳥会結果

スタート前に関医タワーのまわりをハヤブサが飛んだが、スタートのころタワー周辺を飛び回ったのはトビであった。淀川本流の浅瀬には昨年(1月~3月)に続いて今年も2週間前から渡来していたヘラサギが、ほとんど動かず休んでいた。多数のキンクロハジロ・オオバンが水面に浮き、ハイタカが上空を飛ぶとキンクロハジロの大群が遠くに移動する光景も観察できた。更に水にゆっくり浮かんでいるカワアイサの近くで潜水を繰り返すウミアイサも観察できた。河川敷の草原からは春の陽気に誘われたウグイスのさえずりが切れ目なく聞こえ、ホオジロなどの小鳥だけでなく、キジやキジバト、そしてトビの「ピーヒョロロ」も聞くことができた。快晴で暖かな日中に参加された多数(43名)の方に、45種の鳥たちが春の喜びを見せてくれた探鳥会となった。



キンクロハジロの飛翔 20260301(小河敏之氏)

Ⅲ 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間での観察回数です。
100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥？

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025					2026					第8版
				3	4	5	6	7	3	4	5	6	7	
				2	6	4	1	6	1	5	3	7	5	
12	カモ	マガン	1											12
18		ツクシガモ	3	雨										18
23		トモエガモ	2	天										23
24		シマアジ	1	中										24
26		ハシビロガモ	9	止										26
27		オカヨシガモ	52	8					○					27
28		ヨシガモ	21	2					○					28
29		ヒドリガモ	48	2										29
30		アメリカヒドリ	6											30
32		カルガモ	97	16	8	5	2	○						32
33		マガモ	58	1	1			○						33
34		オナガガモ	8											34
35		コガモ	62	16				○						35
39		ホシハジロ	46	4				○						39
40		アカハジロ	6											40
41		メジロガモ	1											41
43		キンクロハジロ	47	24				○						43
44		スズガモ	7	1										44
56		ミコアイサ	2											56
58		カワアイサ	50					○						58
59		ウミアイサ	3					○						59
64	キジ	キジ	54		2	1		○						64
69	アマツバメ	アマツバメ	2											69
80	カウ	ホトギス	2											80
82	コウ	ツツドリ	2											82
83		カッコウ	1											83
89	ハト	キジバト	125	10		6	1	○						89
96	クイナ	クイナ	12											96
100		バン	23											100
101		オオバン	55	112	87	1		○						101
103		ヒクイナ	7											103
117	カイツ	カイツブリ	51	5										117
119	ブリ	カムムリカイツブリ	64	4	4	1		○						119
121		ハジロカイツブリ	4											121
127	チドリ	タゲリ	1											127
128		ケリ	27											128
134		イカルチドリ	9											134
135		コチドリ	32		3									135
136		シロチドリ	4											136
144	シギ	チュウシャクシギ	2											144
163		トウネン	1	雨										163
165		ハマシギ	1	天										165
183		タシギ	5	中										183
188		イソシギ	89	2	止	3			○					188
190		クサシギ	3											190
192		キアシシギ	2											192
198		アオアシシギ	1											198
213	カモメ	ユリカモメ	22											213
221		ウミネコ	3						3					221
222		カモメ	3											222
226		セグロカモメ	20											226
233		コアジサシ	9				3							233
270	アビ	シロエリオオハム	1											270
315	ウ	カワウ	122	23	8	7	23	○						315
319	トキ	ヘラサギ	1	1					○					319
320		クロツラヘラサギ	1											320
328	サギ	ゴイサギ	10											328
330		ササゴイ	18											330
332		アマサギ	3			8								332
333		アオサギ	124	1	5	3	2	○						333
335		ダイサギ	120		3	4	1	○						335
337		コサギ	111	1	1	2	7	○						337
343	ミサゴ	ミサゴ	75	2			3	○						343
344	タカ	ハチクマ	2											344
352		ツミ												352
353		ハイタカ	36	1					○					353
354		オオタカ	27	2					○					354
355		チュウヒ	2											355
356		ハイイロチュウヒ	1											356
359		トビ	102		2	2	2	○						359
363		サシバ	1											363
366		ノスリ	37											366
371	フクロウ	オオコノハズク	1											371
384	カワセミ	カワセミ	106			2	3	○						384
389	キツ	アリスイ	10											389
390	ツキ	コゲラ	102											390
394		アカゲラ	6											394
402	ハヤブサ	チョウゲンボウ	57		1	2								402
407		ハヤブサ	31	1					○					407



ヘラサギ 20260301(小河敏之氏)



モズ 20260301(小河敏之氏)

第8版	科名	鳥名	観察回数	2025					2026					第8版	
				3	4	5	6	7	3	4	5	6	7		
411	サンショウクイ	サンショウクイ	1											411	
419	オササキヒタキ	サンコウチョウ	1	雨										419	
425	モズ	モズ	114	4	天	4		○						425	
435	カラス	ハシボソガラス	128	28	中	16	12	9	○						435
436		ハシブトガラス	118	3	止	2	3	8	○						436
440	シジュウカラ	ヒガラ	1											440	
442		ヤマガラ	7											442	
447		シジュウカラ	118	4		3	5		○						447
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1											448	
450	ヒバリ	ヒバリ	68			1								450	
456	ヒヨドリ	ヒヨドリ	126	300		3	34	23	○						456
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6											458	
461		ツバメ	64			35	200	25						461	
462		イワツバメ	54	30		22	100	10	○						462
463		ヨシアカツバメ	23					2						463	
464	ウグイス	ウグイス	119	7		9	10	7	○						464
467	エナガ	エナガ	93	1		1								467	
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7			1								476	
479		エゾクシクイ	1											479	
481		メボソムシクイ	5											481	
482		オオムシクイ	5			1								482	
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33			8	14	4						484	
485		コヨシキリ				1								485	
497	セッカ	セッカ	32			2	2							497	
501	メジロ	メジロ	103	3		2	2							501	
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8											502	
507	ムクドリ	ムクドリ	113	150		18	35		○					507	
509		コムクドリ	5											509	
512		ホシムクドリ	2											512	
525	ツグミ	マミチャジナイ	1											525	
526		シロハラ	54	3										526	
527		アカハラ	2											527	
531		ツグミ	80	14					○					531	
532		ハチジョウツグミ												532	
533	ヒタキ	エゾビタキ	9											533	
534		サメビタキ	2											534	
537		コサメビタキ	18											537	
539		オオルリ	4											539	
543		ノゴマ	1											543	
550	ヒタキ(続)	キビタキ	16											550	
554		オジロビタキ	1	雨										554	
556		ルリビタキ	1	天										556	
561		ジョウビタキ	60	6	中				○					561	
564		インヨドリ	39	3	止		1	1						564	
568		ノビタキ	13											568	
575	スズメ	スズメ	125	62		14	28	31	○					575	
584	セキレイ	キセキレイ	42	1					○					584	
585		ハクセキレイ	116	14		2	1	2	○					585	
586		セグロセキレイ	109	1		2	1	1	○					586	
595		クハバリ	35	20										595	
597	アトリ	アトリ	29	14										597	
598		シメ	42						○					598	
600		イカル	17	10										600	
606		ベニマシコ	44						○					606	
608		カワラヒワ	114	43		3	6	9	○					608	
613		マヒワ	6											613	
618	ホオジロ	ホオジロ	119	10		13	9	7	○					618	
622		ホオアカ	6											622	
625		カシラダカ	23											625	
626		ミヤマホオジロ	1											626	
633		アオジ	70	13					○					633	
637		オオジュリン	17											637	
9	キジ	コジュケイ	13											9	
11	ハト	カワラバ(ドバト)	121			13	8		○					11	
30	ムクドリ	ハッカチョウ	1											30	
		カッコウSP	5												
		アイガモ	3												
		メボソムシクイSP	7												
		ヒタキSP	3												
種数合計(自動計算)			47			32	37	27	45						
個体数合計(自動計算)			1047			297	526	195							
採鳥会参加者数			30			35	30	14	43						
13年間観察回数			1~2回						2017年1月~2024年12月の13年間 ①観察回数の少ない種(1~2回) ②観察回数多い種(100回以上) ③樹林伐採の影響を受けるとされる種						
樹林伐採影響でなくなる種															

IV 次回5月3日(日)
 午前9時 ラポールひらかた前
 今日と同じようにHPの専用フォームからお申し込みください。

留鳥たちの繁殖期、キジの「ケーン・ケーン」など、春の歌で迎えてくれます。
 また、ウグイス・ヒバリ・セッカ・ホオジロなどの歌声も楽しみです。
 野鳥通りの木々が伐採されたことでもの、通過する春の渡り鳥も楽しみです。



キジ 20240505 西脇淳浩氏

V (愛称)野鳥通りの今昔

磯島グラウンドの南側の河川敷(中水敷・高水敷)は、**30年以上木々が伐採されずに放置されてきたことから、樹木が大きくなり、いわゆる里山的な環境**となっていました。しかもそこは鳥に種子分散されたセンダンをメインに、ナンキンハゼ・アキニレ・クスノキ・エノキなど鳥の好む実の生る木があり、春秋の渡りの季節にはキビタキ・オオルリ・コサメビタキにムシクイの仲間など、冬になるとシロハラ・アトリ・シメなど、留鳥のシジュウカラ・エナガ・コゲラ・ヒヨドリなど、林の鳥が色々訪れてくれる場所となり、「**野鳥通り**」との愛称がついた小鳥の宝庫でした。

河川敷の木は台風などで洪水が発生すると、木が倒れ下流に流れること、その木が橋にぶつかり壊れると通行できなくなる懸念がありました。このようなことで、河川管理の予算が出たのでしょうか、2023年度に野鳥通りの樹木が伐採されました。

たまたま2023年春に、野鳥通り中水敷の木に**オオタカが営巣・子育てに成功しました**(下記マップ②オオタカ営巣地)。このため「オオタカが今後も営巣する場所を残してほしい」と淀川河川事務所にお願した結果、営巣個所を中心に**50mX150m**の範囲を伐採せずに残してもらいました。2024年・2025年は残念ながら営巣しなかったため、河川事務所からは全伐するといわれています。

一方で、河川敷は林の鳥を呼ぶ所でなく、ホオジロ・ヒバリなどの草原の鳥の生息場所にすべきという考え方があり、これが本質と思っています。山野の鳥は都市公園にも住めますが、都会では農地が次々に住宅地化していることもあり、草原の住むところは無くなっています。河川敷は草原の鳥が生息できる唯一の場所であり、野鳥通りが草原の鳥の宝庫になってほしいと願っています。



伐採前(地理院地図)

野鳥通り周辺 空中写真

伐採後(グーグルマップ)

